

「確信に基づいて行動する」

2018年10月30日

ローマの信徒への手紙 14章 17節～23節 神の国は、飲み食いではなく、聖霊によって与えられる義と平和と喜びなのです。このようにしてキリストに仕える人は、神に喜ばれ、人々に信頼されます。だから、平和や互いの向上に役立つことを追い求めようではありませんか。食べ物のために神の働きを無にしてはなりません。すべては清いのですが、食べて人を罪に誘う者には悪い物となります。肉も食べなければぶどう酒も飲まず、そのほか兄弟を罪に誘うようなことをしないのが望ましい。あなたは自分が抱いている確信を、神の御前で心の内に持っていなさい。自分の決心にやましさを感ぜない人は幸いです。疑いながら食べる人は、確信に基づいて行動していないので、罪に定められます。確信に基づいていないことは、すべて罪なのです。

パウロは、「神の国は、飲み食いではなく、聖霊によって与えられる義と平和と喜びなのです」と言う。パウロにとって「神の国」とはキリストが臨在し、神の愛が満ち溢れている世界である。そこは、飲み食いは問題ではなく、聖霊によって与えられる義と平和と喜びの世界である。このパウロの言葉に近い言葉を、主イエスは、山上の説教の中で下記のように語っている。「だから、『何を食おうか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言って、思い悩むな。それはみな、異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存じである。何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる（マタイ 6: 31～33）。」主イエスは、食べ物、飲み物、着物について思い悩まず、神の国と神の義を求めなさい、そうすれば、神が必要を満たしてくださると、神の守りと励ましを語っている。パウロは、終末的希望において、既に、神の国、即ち、義と平和と喜びが存在している、そして、あなたがたは神の国の住人であると言っている訳である。

パウロは、神の国の住人であるから、「このようにしてキリストに仕える人は、神に喜ばれ、人々に信頼されます」と言う。パウロは、諸手紙の冒頭で自己紹介を書いているが、ほぼ定型で、「イエス・キリストの僕、福音のために使徒となったパウロ」と表現している。キリストに仕える僕、福音宣教に用いられる使徒であることが、パウロにとって、神に喜ばれ、人々に信頼され、誇りであり、喜びであった。キリストに仕え、「だから、平和や互いの向上に役立つことを追い求めようではありませんか」と勧める。そしてまた、食べ物の問題で神の働きを無にしてはならないと諭す。全てが清いのである。汚れたものなどはない。しかし、食べることによって人を罪に誘うならば、悪い物となる。そうならば、「肉も食べなければぶどう酒も飲まず、そのほか兄弟を罪に誘うようなことをしないのが望ましい。」福音の自由の知識を持つ者は、何を食べても構わないと思っているが、自由を用いて、兄弟を罪に誘わないことが望ましい。真に強い者はつまずきを与えないために、食べない選択もあるではないかと呼びかけている。

「あなたは自分が抱いている確信を、神の御前で心の内に持っていなさい。」「確信」という言葉は、ギリシア語の「ピステイス」で信仰という意味である。だから、神の御前で、自分が抱いている信仰を心の内にしっかり持ちなさいと勧めている。「自分の決心にやましさを感ぜない人は幸いです。疑いながら食べる人は、確信に基づいて行動していないので、罪に定められます。」信仰に基づかない行動は、自分も隣人も巻き込み、裁き合いの罪に落ち込んでしまう。